

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>住み慣れた地域で安心した暮らし、関係性の継続を支えるという視点を理念に加えている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念をリビングに掲示し、日々のサービスの提供にあたっての拠りどころとしている。職員会議やミーティング等で利用者の生活の場面に活かされるよう話し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には利用時や面会時、行事や運営推進会議等で伝え地域の方々にも行事や運営推進会議、見学の際に理解して頂けるように考えを伝えている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>昨年度加入した住民協議会の収穫祭に、畑で取れた野菜や利用者の作品を出品し参加している。地域活動においては、草取り活動の日程を教えて頂き毎年参加させて頂いている。散歩や近所の野菜直売店では、顔なじみになっており挨拶をしたり声を掛け合っている。運営推進会議の中で地域の方からの認知症や介護サービスについての質問に答えている。</p>	<p>近隣の方々が気軽に立ち寄り、交流できる機会を増やせるように運営推進会議等で話し合っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修や資料を回覧し全職員が学んでいる。</p>	<p>現在制度を利用されている方や相談は無いが、今後必要な方に支援出来るように研修等で理解を深めて行きたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修や特養の委員会の資料回覧等で学ぶ機会を設け、施設全体、ホーム内のミーティングの中でも職員の対応、言動、行動について虐待につながっていないか話し合っている。</p>	<p>定期的に研修会を行い、全職員の理解を深めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書、重要事項説明書をもとに方針やサービス内容について説明している。入院や重度化になった場合については入所時とその状況になった際に再度不安な事は無いか確認し、その都度説明している。</p>	
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>散歩、入浴、買い物時や訪室して個別に話を聞く機会を設けている。面会時には家族に協力して頂き、職員に話せない不満や苦情等些細な事でも聞かれた際は伝えてもらえよう声を掛けている。利用者にも運営推進会議のメンバーとして参加して頂き意見を述べる機会を設け、意見が出された際は利用者の視点で検討し報告している。</p>	
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に生活状況や健康状態その他の報告や金銭管理の確認をして頂き、健康状態に変化が見られた際はその都度電話で連絡している。入所時に家族の要望をお聞きし、個々に合わせて定期的に報告している。遠方の家族にも同様に合わせて郵送と電話で連絡している。ホーム便りも3ヶ月毎に発行し暮らしぶりを報告している。</p>	
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会后 家族と話し合いの場を設け、その都度要望等の確認を行なっているほか、玄関に意見書を設置している。行事や面会時にサービスの質の向上の為に不可欠であることを説明し協力を要請している。</p>	
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、ミーティング、カンファレンスなどで意見や提案を聞き、運営の改善やサービスの向上につなげている。</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況にあわせ勤務体制の見直しや調整を行なっている。また、緊急時には併設の特養からの協力も得られる体制が整っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人間の異動は最小限にしている。異動があった場合は、1ヶ月間は交代者と共に業務に就き馴染みの関係作りが出来るよう配慮している。異動後も行事参加に参加して頂き、関係が途切れないようにしている。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修内容と本人の経験などを踏まえて外部研修に参加させている。新任研修の他、定期購読誌や併設の特養からの研修資料の回覧などを保存し新人職員の資料として活用している。</p>		<p>内部研修の時間を設け、段階に応じた研修を行なっていきたい。</p>
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修やGH協会の交流会に参加し他事業所との交流する機会を持ちネットワーク作りを行なっている。また、お互いに情報交換したり見学しサービスの質の向上を図っている。</p>		<p>より多くの職員が参加できるよう今後取組んでいきたい。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務の負担軽減を図る為、ミーティングで出された意見は全員で話し合い業務内容の見直しを行なっている。法人内の互助会や旅行会があり、3ヶ月毎のボーリング大会や忘年会、旅行などを通じて親睦を図っている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>外部研修の受講や資格取得について、勤務調整や有給休暇を利用し個々がスキルアップできるよう配慮している。職員が向上心をもって働けるように職能評価を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を共有しながら、家族と共に話し合い一緒に支えるために協力している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や行事に気軽に来て頂けるよう声をかけたり、お盆やお正月の帰省の支援をし関係が途絶えないようにしている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、自宅への外出や外泊の支援を行っている。買い物やドライブの際は、自宅前や地域を通ったり 本人の行き付けの店に買い物に連れて行っている。居宅サービスを利用している友人にサービス利用時に面会に来ていただいたり、会いに行ったりし行き来出来ている。遠方にある家族には、電話や手紙のやり取りをし関係が継続できている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞く時間を設け相談にのっている。お茶の時間、散歩、ドライブなど気の合うもの同士で過ごせる時間や皆で楽しく過ごせるよう、職員が調整役になっている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、いつでも相談に応じることを伝え、併設の特養に入所された方には、退居後も面会に行き話を聞いたり、職員と情報交換をしている。本人もホームへ遊びに来たり関係を断ち切らないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いや希望を伺い、希望に添った生活が送れるよう介護計画を立てている。困難な場合は家族の意見も伺いながら本人本位に検討している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用時に本人、家族、介護サービス事業所から情報を提供して頂き、介護計画やホームでの暮らし方に役立てている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人の状況を観察し、毎日のミーティングや申し送りノートで職員全員で総合的に把握するよう努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成の際は、本人、家族、職員とでより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、意見を出し合って作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月毎にモニタリングと評価を行い、変化が生じた場合は本人、家族、職員と話し合いをしながら見直しをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいた実践、結果は個別のケースに記録し毎月モニタリングと評価をし介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて、通院・外出・外泊の送迎支援は柔軟に対応している。併設の施設のリハビリを受けたい方には実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署や地域の消防団の協力を得ている。		必要時には連携し支援していきたい。
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、希望する方がいない。		必要時にはサービス事業者と話し合い支援していきたい。
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人からの希望や必要性が無く、協働していない。		必要時には連携し支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に本人、家族の希望するかかりつけ医と通院方法について確認し、適切な医療を受けられるように支援する。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	回診時や通院時に同伴をして状況報告し、必要に応じて助言を頂いている。病状に変化があった場合は通院し治療が受けられるよう支援している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養の看護師に相談したり支援を受けている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には定期的に見舞いに行き、病院関係者と情報の交換しながらグループホームの利用者であることを伝え、早期に退院できるように相談している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合の説明と本人家族と確認しあっている。特養に併設しているため、グループホームでの終末を希望される方はいない。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化の状態となった場合、本人、家族と話し合いながら医療機関や入所申請している特養と検討や準備を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者の好みや力を活かしながら食事の準備・食事・後片付けは一緒に行なっている。畑から収穫した旬の野菜を使用したメニューを一緒に考え調理し、皆で楽しむ事が出来ている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は利用者の嗜好に合わせて準備している。お酒の好きな方には、本人の好きな銘柄のお酒とグラスで毎日飲めるようにしている。現在喫煙する方はいないが、喫煙場所は確保している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、自立支援を心がけている。本人の状況に応じてサービスの見直しや、尿意の無い方には時間を見計らって誘導し気持ちよく排泄できるように支援している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉浴であり毎日でも入浴可能であり、入浴日は本人の希望を合わせて対応している。また時間帯やお湯の温度の調整も本人に伺いながら行なっている。その日の気分で入りたくない場合は、翌日にしたり時間をおいたりし柔軟に対応している。個浴であり、ゆっくりくつろいで入って頂いている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣を配慮しながら、起床、就寝時間は本人に合わせて、騒音や採光にも配慮し気持ちよく眠れるようにしている。眠れない方には、生活リズムや日中の活動内容の見直しや原因を探り、生活のリズム作りを支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の力に合わせて、家事・花の世話・畑・ゴミ出しの役割を持って活動している。個々の希望に添って散歩・ドライブ・買い物・趣味活動等の個別の支援を行なっている。利用者が楽しみとしている地域のお祭りやお花見・遠足・家族との食事会等を実施し喜んで頂いている。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方にはお金を所持して頂いており、管理できない方に関しては、家族の同意を得て少額所持し定期的に職員で残金を確認している。外出の際は本人が支払いを出来るように支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添って、散歩・買い物・ドライブ等の支援を行なっている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の要望があれば家族とも相談し、機会を作るように努めている。地域の文化祭やチラシで見に行きたいとあれば、希望者を連れて行ったり、家族との外出や外泊も支援している。遠足は利用者の希望に添って企画している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限も無く自由にして頂いている。併設の特養の事務に切手やポストがあり、出したいときに一人でポストに入れている。電話も職員に聞かれない場合は、一人で話せる環境を作り気兼ねなく話せるように支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にお茶と椅子を持っていき、ゆっくり過ごしていただくよう声をかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり、併設の身体拘束委員からの資料や職員会議、ミーティングで理解し拘束の無いケアを実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けない自由な生活を支援している。玄関にチャイムをつけているが、利用者の状況に合わせて使用している。併設の特養との入り口も開放しており、利用者が自由に行き来できるようにしている。また職員がリビングにいるようにし、利用者の状況の把握に努めている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングの中心に台所が設置されているので、利用者と食事の準備をしながら、リビングの様子を見守っている。併設の特養へ散歩や面会の際は、施設の職員が見守っている。入浴時は定期的に声をかけ安否確認を行ない、夜間は1時間毎に巡回し安否確認を行っている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物の保管場所には鍵がついているが現在は鍵は使用しておらず、利用者の状況に応じてその都度検討している。現在は利用者の状態が安定している為、必要な物品は使用後に所定の場所に保管しているが、使用したいときは見守りの中で自由に利用出来るようにしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況からリスクを想定し 職員間で話し合い、環境整備やマニュアルを確認し未然に防ぐ工夫をしている。事故発生時は事故報告書を作成し、原因と予防策を検討し家族、運営者、市へ報告している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署による救急救命法の研修に参加し、学んでいる。急変時や事故発生時のマニュアルを夜勤前に確認し業務に就いている。またミーティングでも確認しあっている。		内部研修でも定期的に訓練を行なっていきたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	ホームでの避難訓練は年2回、地震訓練は1回、施設全体の避難訓練も2回実施している。施設全体の訓練では、消防署や地域の消防団の協力を頂いている。ホームでの訓練では、施設職員との連携出来る体制をとっており訓練時には避難、誘導の協力を得られている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況からリスクを想定し 家族に状況報告と起こりうるリスクの説明をし、理解して頂きながら 本人の望む生活が継続できるように、共に考えその都度対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のミーティングや申し送りで利用者の体調変化を確認し合い観察や対応を話し合っている。体調の変化や異変が感じられた際は、すぐにバイタルを確認し 家族に連絡し対応を話し合い通院している。又体調変化時は併設の特養の看護師にも相談し助言を仰いでいる。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の持病の把握と内服薬の効能と副作用についてファイルにまとめその都度確認できるようにしている。処方に変化があった場合は症状の変化の観察を行い申し送っている。服薬は一人一人の状況に合わせ、声かけや見守りし確実に服用できるように支援している。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防として、毎朝牛乳を出し、献立にも繊維を多く含む食材を使用している。水分の摂取量や排便の確認、生活や排泄のパターンを把握し、便秘の原因を探り対応している。散歩や作業を通して体を動かす機会を設けている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の力に合わせ、毎食後に声を掛けたり見守りし出来ない方には支援している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの嗜好や習慣を把握しながら、嫌いな副食は代替品を出したり 食器や盛り付けに工夫をしている。栄養バランス等は併設の特養の栄養士に定期的に相談や助言を頂いている。水分も取りやすいように、本人が飲みやすい容器を使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルや特養の感染症予防委員会からの最新情報の提供、看護師からの助言を得ながら予防や対応の取り決めをしている。契約時に利用者や家族の同意を得て、全利用者職員とのインフルエンザの予防接種を行なっている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した食器・まな板・ふきんは毎日消毒している。食事の準備の際には食品の賞味期限を確認し使用している。すぐにし使用しない食品は冷凍保存し、使用時に解凍し調理している。食品の買出しは4日毎にしており、食材は使い切るようにし、新鮮な食材を使用できるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、ベンチやテーブルを設置し季節の花を植えたプランターや庭を楽しんでいただけるようにしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に花や観葉植物を飾ったり、窓からは庭や畑が見える。壁掛けも季節に合わせ取り替え、季節を感じていただけるようにしている。就寝の際も個々の希望に合わせ、電気の明るさを調整し心地よく眠れるよう配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に和室があり、そこで昼寝をしたり、勝手口や玄関前にベンチを設置し談笑できるようにしている。また併設の特養にいる夫の部屋に遊びに行ったり、特養のリビングに夫婦専用のソファを置きゆっくり過ごして頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>特養やデイサービスが隣接されており、顔なじみの方に会いに行ったり、訪問や行事の際は気軽に参加出来楽しんでいる。また協力体制も整っている。敷地内に庭や畑を確保して余暇の活動が出来るようにしている。春はお花見、夏は家族と外でバーベキュー、秋は落ち葉で焼き芋、冬は雪だるまを作り季節を感じ楽しんでいる。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームは林檎畑に囲まれた静かな環境に立地している。車で10分の所にはエルムやショッピングセンターもあり、利用者の希望に添って欲しいものを欲しい店で買い物ができる環境である。併設の特養やデイサービスの機能も活用でき、利用者間の交流や地域の行事にも参加し 馴染みの仲間や地域とのつながりを実感しながら生活されています。敷地には、四季を感じられるように庭や畑があり余暇を自由に楽しめ自然に触れることが出来ている。また、職員は利用者の思いを大切にし 穏やかで安らぎのある暮らしを継続できるよう支援しています。